

Windows用インストーラmsiを生成する処理を外す

2016/11/21 17:48 - n.kawauchi

ステータス:	終了	開始日:	2016/11/21
優先度:	通常	期日:	
担当者:	n.kawauchi	進捗率:	100%
カテゴリ:		予定工数:	0.00時間
対象バージョン:	RELEASE_1_2_0		
説明			
<ul style="list-style-type: none"> OpenRTM-aist 1.1.2版からは、C++,Python,Javaの各インストーラが1つのにまとめられているので、Java言語用単独インストーラは生成しない OpenRTM-aist-Javaは、マージモジュールmsmを作成し、これを使ってmsiが生成されるのだが、この処理は下記の別リポジトリで管理している http://svn.openrtm.org/openrtm-java-msm-buildtool/trunk/openrtm-java-msm/ このため、現在ソースに残っているインストーラ作成機能は不要につき削除する 			

関係しているリビジョン

リビジョン 872 - 2016/11/21 19:06 - kawauchi

[compat,->RELENG_1_2] Installer creation process has been deleted. refs #3715

リビジョン 873 - 2016/11/22 11:13 - kawauchi

[compat,->RELENG_1_2] Correction about the installer directory deletion. refs #3715

リビジョン 874 - 2016/11/22 11:43 - kawauchi

[compat,->RELENG_1_2] Correction on revision 873. refs #3715

リビジョン 875 - 2016/11/22 14:08 - kawauchi

[compat,->RELENG_1_2] Correction about the installer directory deletion. Document generation directory has been changed. refs #3715

リビジョン 876 - 2016/11/22 19:29 - kawauchi

[compat,->RELENG_1_2] Correction about the installer directory deletion. Scripts and license file have been moved. refs #3715

リビジョン 877 - 2016/11/24 16:57 - kawauchi

[compat,->RELENG_1_2] Unnecessary directories and files have been deleted. refs #3715

リビジョン 878 - 2016/11/24 18:44 - kawauchi

[compat,->RELENG_1_2] When building on Linux, "native2ascii" processing has been removed. refs #3715

リビジョン 879 - 2016/11/25 15:21 - kawauchi

[compat,->RELENG_1_2] Setting of source package and build setting on Windows have been changed. refs #3715

履歴

#1 - 2016/11/25 17:25 - n.kawauchi

- ステータスを新規から解決に変更

- 進捗率を0から100に変更

installer下に設定されていたWindows用インストーラmsiを生成する処理は不要のため、このディレクトリを丸ごと外すことにした。このため、このディレクトリを作業用に使用していた処理を見直し、ソースを整理した。詳細は以下の通り。

- r873 r874 の修正
 - jp.go.aist.rtm.RTC/installer/resources/Source/jarディレクトリ削除に伴う修正
 - msi作成のため必要だったコピー処理を外した

- ここにcommons-cli-1.1.jarとcommons-cli-1.1.zipが置かれていたが、jp.go.aist.rtm.RTC/lib/commons-cli-1.1.jarがあるため不要につき削除した
- [r875](#) の修正
 - ドキュメントの生成先をjp.go.aist.rtm.RTC/docsへ変更
 - 今まではmsi作成のため下記に生成されていた
 - jp.go.aist.rtm.RTC/installer/resources/Source/JavaDoc
 - jp.go.aist.rtm.RTC/installer/resources/Source/JavaDocEn
 - installerディレクトリを削除するので生成先を変更
 - build.xmlがdocsディレクトリを作成後に処理を行う
- [r876](#) の修正
 - installer下に残っていたファイルの移動
 - Licenseファイル -> jp.go.aist.rtm.RTC直下へ
 - RTMExamplesの起動スクリプト (bat, sh) -> jp.go.aist.rtm.RTC /src /RTMExamples_scriptsへ
- [r877](#) の修正
 - jp.go.aist.rtm.RTC下の不要なディレクトリ・ファイルの削除
 - bat /start-orbd.bat
 - src /RTMExamples_scripts 下に同じものが存在するため
 - bin
 - 空のディレクトリなので削除して問題ない
 - build.xmlに本ディレクトリ作成処理が定義されている
 - installer
 - r873 ~ 876の処理にて利用が無くなったので削除
 - jar
 - ここにある commons-cli-1.1.jarはlib下でも管理しているので削除して問題ない
 - build.xmlに本ディレクトリ作成処理が定義されている
 - sample
 - ここには PortValueInput というサンプルが置かれている
 - メンテナンスされていないようなので削除する
 - Source
 - ここにRTMExamplesが置いてあるが、これはsrc /RTMExamplesで管理しているので不要
 - jar /commons-cli-1.1.jarは、lib下で管理しているので不要
- [r878](#) の修正
 - native2asciiの文字コード変換は、Windows環境でのビルド時は行い、Linux環境時のビルドは外すように修正
 - この処理が入っていると、ビルドするだけでソースの文字コードが変わり、subversionで変更ありのファイルとみなされてしまう
 - Linux環境ではこの処理を入れなくても正常にビルドできるので、Linuxでのビルド時のみ外すようにした
 - 合わせてゴミファイルを削除し、その一方で必要なconfファイルが削除されてしまう処理を改めた
- [r879](#) の修正
 - ソースパッケージ作成時の設定、Windows上でのソースビルド設定を変更
 - 以前のリポジトリはトップフォルダのOpenRTM-aist-Javaが無い状態で、この環境に合わせた定義になっていたの、OpenRTM-aist-Javaフォルダもソースパッケージに含まれるようにした
 - buildRTC.bat実行時、ドキュメントビルドとソースパッケージ作成を行わないようにした
 - Windows環境でドキュメントを生成させると日本語が文字化けするし、処理は止まらないがエラー100項目などと表示されるため、Linux環境ならば問題ない。

#2 - 2017/03/19 08:21 - n-ando

- ステータスを 解決 から 終了 に変更